

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究
—環境因子チェックリスト(PA-ADL チェックリスト)の開発・改良について—

研究分担者：佐藤 俊介 国立大学法人大阪大学 大学院医学系研究科
情報統合医学精神医学教室 助教

研究要旨：我々は専門職種が患家に出向くことなく ADL や住環境の評価・生活指導を行えるよう、在宅生活を把握できる評価項目をマニュアル化し、本マニュアルに沿って介護者に自宅写真を撮ってもらい、回収した写真から生活を評価する非訪問型の生活評価システム「Photo Assessment(以下、PA)」と「Online Management(以下、O-MGT)」を開発した。本研究で我々は、PA および O-MGT を組み合わせた非訪問型の生活評価・介入システムの構築と標準化を目的とし、PA および O-MGT のパイロット介入事例を後方視的に検証することで、生活評価項目や介入手順を検証し、PA と O-MGT の手順書を作成した。また、PA で重視すべき環境因子のチェックリスト(PA-ADL チェックリスト)の開発・改良を行った。

A. 研究目的

本研究では、認知症専門医と作業療法士などの多職種が協働して、感染症蔓延下においても認知症者の認知症疾患別また重症度別に適切な在宅支援が可能となる非訪問型の生活評価・介入システムの構築と標準化を目的とする。

B. 研究方法

Photo Assessment(以下、PA)および Online Management(以下、O-MGT)のパイロット介入事例を後方視的に検証する。事例の原因疾患、重症度、生活形態や ADL 評価方法、介入期間、効果などの類型化を行い、生活評価項目や介入手順を検証した。

C. 研究結果

事例の後方視的検証、データ分析から、PA および O-MGT を行う上での評価や介入方法を検討し、手順書を作成した。また PA で重視すべき環境因子のチェックリスト(PA-ADL チェックリスト)の開発・改良を行った。

D. 考察

認知症者の ADL を正確に評価するための妥当性、信頼性の高い尺度とすべく手順書を作成できた。また環境要因に加えて、家族介護者の要因や原疾患の要因も含めた評価ができるよう改良を重ねる必要があると思われた。

E. 結論

在宅における ADL を遠隔でも網羅的に評価できるための PA および O-MGT の手順書を作成できた。

G. 研究発表

1. 論文発表
特記事項なし
2. 学会発表
特記事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

特記事項なし

2. 実用新案登録

特記事項なし

3. その他

特記事項なし